2013 大会プレイバック

＜マスターズ甲子園 2013・第 10 回大会＞

2012 ～ 2013シリーズ第２幕

第 10 回記念大会では、各地方予選大会で代表権を得た、白石（宮城代表）、日本大学東北（福島代表）、群馬県選抜（群馬代表）、安田学園（東京代表）、岐阜県選抜（岐阜代表）、海星（三重代表）、奈良情報商業・桜井商業（奈良代表）、羽曳野（大阪代表）、鳥取中央育英（鳥取代表）、池田（徳島代表）、八代東（熊本代表）、日南学園（宮崎代表）、加治木（鹿児島代表）、読谷（沖縄代表）と、さらに 10 周年を記念して行われた全国高校野球 OB トーナメントを勝ち抜いた東日本代表の木本（三重県）と、西日本代表の鹿児島実業（鹿児島）の計 16 チームが出場しました。このうち、鳥取中央育英、羽曳野、木本の 3 チームは、現役高校野球部も甲子園未出場であり、高校創設以来、悲願の甲子園初出場となりました。また、沖縄では第一回目となる県予選大会が行なわれ、初代沖縄代表として、読谷高校 OB が出場しました。

これらの出場 16 チームに計 744 人の選手がベンチ登録、このうち高校時代での甲子園非出場者は 624 人でした。最年少は 18 歳、最高齢は、読谷高校野球部一期生で OB 会顧問を務める花城康次郎氏 (82) が出場しました。元プロ野球選手も参加し、奈良情報商業･桜井商業からは駒田徳広氏（元巨人･横浜）が昨年大会に続いて出場。また、池田高校からは「やまびこ打線」で現役時代に夏春連覇を成し遂げた、江上光治氏が出場し、開会式では選手宣誓を務めました。

また、先述のとおり、今大会では、全国高校野球 OB トーナメント優勝決定戦が行われ、351 校が予選に出場しました。東日本代表として木本高校が、西日本代表として鹿児島実業がマスターズ甲子園本大会二日目の最終戦で対決し、木本が一歩リードする展開が続くも、鹿児島実業が 5 回から追い上げ、最終回では意地の一点を返すなど 2 時間 23 分の熱戦を繰り広げた結果、5 対 2 で木本が初となる日本一の栄冠を手にしました。

大会初日に開催される甲子園キャッチボールには、32 都府県より計 223 ペアが登録。元高校硬式野球部関係者（部員、監督、部長、コーチ、マネージャー）であれば、チームメート同士や他校の元選手、兄弟等で参加できる「球友編」に 38 ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば親子で出場できる「親子編」に 138 ペア、また、片方が元高校硬式野球部関係者であれば夫婦でキャッチボールできる「夫婦編」に 30 カップルが参加しました。そして、今回は、過去の大会を支えてくれたボランティアに感謝の気持ちを込め、敬意を表し、特別に「ボランティア編」が実施され、17 ペアが参加しました。

高校野球選手権大会の初代学生司会者である山内佑利子氏が式典司会を担当。また、夏の高校野球選手権大会の開会式入場行進でプラカード係をかつて務めた市立西宮高校 OG が、高校時代にプラカードを持てなかった同校の OG を誘い、開会式入場行進でのプラカード先導役を実現しました。その他、かつて甲子園に憧れた審判員、ボランティア・スタッフもそれぞれの想いで甲子園デビューを実現しました。